

講義名	ホテル事業経営論			授業形態	
担当教員	伊賀 尚武	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

ホテル業界は一見ホスピタリティ産業の花形な存在で魅力的に映る反面、気候変動、為替変動、トレンドの変化などに常に外部環境のリスクにさらされる不安定な業界でもあります。それらを克服し事業として成功を収めるためには、業界特有のファッション性や質の高いホスピタリティを重視しつつもビジネスとしての冷静な目を養う必要があります。本科目では「ホテルの魅力と宿命的リスク」「ホテルの組織構造と収益」「サービス商品の市場創造」「社会との関わり」の学習を通してホテル経営の基礎知識を一通り身に付けます。

到達目標

経営者の目標を養うことをテーマにし、下記項目を到達目標といたします。

- ）サービス商品と物商品の違いが理解できるようになる。
- ）ホテルの収益構造が理解できるようになる。
- ）マーケティングの基礎知識が身につく。
- ）ホテルの社会的な役割について理解できるようになる。

提出課題

- ）講義の終わりにミニレポートを提出（200時以内）
- ）学期末テスト

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

ミニレポートでの疑問点や重要事項は次の講義の中でシェアする。

評価の基準

- ）ミニレポート 40%（第2～13回 講義）
- ）ホテル経営シミュレーションのグループ発表 20%（第13回 講義）
- ）学期末テスト 40%

履修にあたっての注意・助言他

授業中にできるだけ対話を取り入れたいと思います。こちらから相手の依頼や問いかけをすることがありますので、その時は積極的に関わってください。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

毎回 自作のパワーポイントを教材として使用。

授業計画

1. ガイダンス
2. ホテル事業の歴史
3. ホテル事業の形態
4. ホテルの組織構造（各部署の役割）
5. 宿泊部門（オペレーションと収益）
6. 宴会部門（オペレーションと収益）
7. レストラン部門（オペレーションと収益）
8. ホテルサービスマネジメント（ビジョン、サービスコンセプト、ブランド）
9. ホテルサービスマネジメント（サービスデリバリーシステム、マーケットセグメンテーション）
10. マーケティング
11. 総理
12. 人事
13. ホテル事業の社会性
14. ホテル経営シミュレーション
15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習： 毎次回授業の課題を出すので事前に調べておく。（120分）

復習： 受講した内容について復習を行う。（120分）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- ）到達目標を達成することでDPに貢献できる。
- ）本授業を受講することにより、実社会でのホテル経営に関する思考方法が身につく。
- ）応用力を養うことにより他の業界においても経営者目線で考え判断するための基礎力が身につく。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ）講義の中で、当方からの問いに対し意見やアイデアをレスポンスする機会を設ける。
- ）授業内でグループによるディスカッションの機会を設ける。
- ）授業内で提示する課題についての回答に ICTを使用することがある。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。外資系ホテルで営業とマーケティングを担当。その経験を活かし「魅力的な宿泊施設づくり」について皆さんと共に研究していきたい。また、本「ホテル事業経営論」では、基本的なホテル経営の知識と共に最新の経営事例についても解説を行う。

備考

基本的に講義テーマに関連する書籍や資料の持ち込みは自由とする。